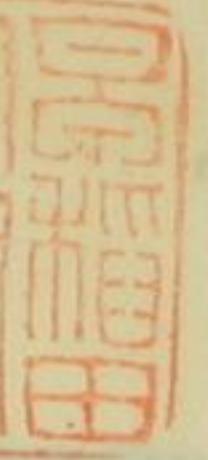


文庫11
A 104
22.

柳田泉文庫

48 10660



相聞

古非思家婆伎麻世和我勢古可伎都楊疑宇禮都美可良
思和禮多知麻多年也此去奈何大半豈安于斯男奈人
之一け半才ませわのせこがやつやきうれみづくわくもまん
もんをハキテうごえきうんと魚中もんとソテのぬくかまつ
やきハ垣内柳もじり田舎すく、余れもてとえ小枝のまくと柳を攀
せよせよもよ、越すよ安のまくと柳のま枝と揃うくしてゆ
さまく、率十ーあ一ほのまくとくとあくとくより

宇都世美能夜蘇許登乃敵波思家久等母安良蘇比可補
氏安乎許登奈須那

うつせみのやう、とのハニぐくとあらまひのね、あをこむなどれ
そひが身のせすとひて、林泊するもと、やうことのへハ八十言の上より

二
敵ヲ故

多くの人のいひをどよ争ひひびて、きと言ひもとてこまく
あれども

宇知日佐須美夜能和我世波夜麻登女乃比射麻久其登
爾安乎和須良須奈

うちじとあみやのわせばやあめのひせまくざてわせわせもせむ
もひを背、いやのうせは東の周造取口ちゆのまよどりと大喜
よ仕をみをつぶやまくはうせをきのとし、垂仁紀よ后的御膳と枕と
くふまととりすまえ事立琴娘が人の膝のへき枕うんとよ
エ、ウタシムシレハシキモレニ

奈勢能古夜等里乃乎加耻志奈可太平禮安乎禰思奈久
與伊久豆君麻氏爾

なせのこやどりのをかうたまふをれあをねーきくよ、くづくまでふ

名夫の子よ、そくは男女どもどり、どうのきのハビ名なうべし私、路
奈良志ハ辯、山里湯中のたわむれなうん、奈市岸のたをりともあら
そあくをもりを男の才能くまぬはねおなく、不合度、よの辯、く
ハ息、くす中絶、かよ、あはぢねぢ、ちりのとくよ、よぬきよとく

伊禰都氣波可加流安我手乎許余比毛可等能乃和久胡

我等里氏奈氣可武

おつけがるあすを、よしもとわらうごのとゆでなぐらん
おつけがれをうちざきて木とくもく、がくハ和名抄解阿加利手足折裂也
とうそへのあらふくまく放うん、りまく、にと解あはあく、良
母ちどりの女のがれとくがれ、婦女の業をくいはまくごとく、トミく
しらづつあくとくは壁もくすくすのちとやうかてになくねつね
とりすひく、あのあらのゆうよいす

多禮曾許能屋能戶於曾夫流爾布奈赤爾和家世乎夜里
氏伊波布許能戶乎

たれぞのやのとれそぢによなみよわびせをやアモレシモノとを
古事記ハチ矛神の由来ふをとものゆゑもいたとを御曾夫良比古アモ
セレバ比許豆良比古たせはと有と、押岡モリ岡えんと有るナリ
ヒトヨナミハレひなり、十一月公の新嘗祭ニテハ國の廟ヨリト同じ
外事ヨリ出で、妻のお忌トモキモ、タヒトモアリ男のアモとおー
ヒトヨンモ、妻のよめも、よすかつてのワセをあへモともと
タヒトモ、あくまくあらとすハレ、家え厚本我ニ化るとうべ
安是登伊敝可佐宿爾安波奈久爾眞日久禮氏與比奈波
許奈爾安家奴思太久流

あせとしとねよあかなよまひとれどよしあいことなよあけぬよだく
あせとしとうハ何ぞとすきつゝ、かねよあはうくハまよ達トヨアキヤトノ、
高きとれて、づくとるをとくとをよび、よもハまくふく、ハ、身の草木
あままで、若のゆきあたるあまく、まくまく、キテモテモ
わざとあらうづる、初秋ちうで、がその夜をとよひとよひと
のちへよひよひとよひへ、あけぬハゆゑよ、あたと思ひとよひと
いそぎ、大平ち思太ハ時トソトモ、ば生未あを思太も、又わまわん之太、
又うなげ之太ハキサコモレモ之太ハちまづる、ねまてハラマツモ、だ時
さうあ朝たとよハ明る時朝くよまなもぐといつも、モリスモ
安志比奇乃夜末佐波妣登乃比登佐波爾麻奈登伊布兒
我安夜爾可奈思佐
あひまやまやはひよ、ひとよまよ、またとよとが、あよのあよ

山澤と多の行よりひ時て、又まゐて人せをふりしト一々も、集市
又母よ神ハまたまよど、さうぞくよ、あやめのこほりの太陽のまろ^{ムス}年春女
止^{トイヘ}戸そらづよひくく、唐子をばも家ヨリ他人しかうめ、嫡妻のよ
を真ちむちめとくしまくたまむ、その女こそもづぎりあられ
えはかくどうゆく多くとよそとあいされき、されど優ふくじむたま
爾安敵流世奈可母
麻等保久能野爾毛安波奈牟已許呂奈久佐刀乃美奈可

まよはまのぬすもあひたるくらうとのみなとあるせれも
まよはゆくまくふこなみても申いよよかみつけぬをとめたゞり川
みよふくわあなたくひとのみづくとつよけり

麻可奈思美奴禮婆許登爾豆佐楠奈敝波已許呂乃緒呂爾能里氏可奈思母

まのなみめれはとくにやねまバよろのをろよのもてかなーも
麻ハ洞お度れ人うよしんせうやまみあバのセハ度後、度ねハシホと
足く奈敵とくつみ、洪ろのろハ脚がまく、然ハかけつたるもすよちく
ナルト吹くつるふくく、とをととハえのたぐのうテハ孝子のよま
ヨナウ

於久夜麻能真木乃伊多度辛等杼登之氏和我比良可武爾伊利伎丘奈左禰

れくやまのまやのつどをとくじて、やがひまつんまつキテナヤクね
おく山の松洞、さすがにあく捨とく、とハ男の穴と叩く音、この匂
ふくゆく、主同二んやハ女のひくく寐へ入るく度より、奈モモ

由木度まゆのち後、事立度周^{イヌ}伊斯大^{ナリ}テ仿農、古子^{アシ}ニハ子^{アシ}神寧^{アシ}、伊遠斯^{ナセ}那^{ナセ}世^セ主^ミも

夜麻杼里刀、辛呂能波都辛爾、可賀美可家、力奈布倍美許曾奈爾與曾利雞采

やまくらのとくのは^エとよがみよけ、なづみ^スたまゆよそくわくめ
和名^サ山雞一名鶴鷄^{夜万土利}、吕ハ脚^ス、尾^ス、秀^ツ、尾^ス、尾^ス
中^スあきとくが園の魏^{とい}、代^ス山雞^とうひく^ス、^スうひく^ス
ス尾^スのすよ候^スを^ス、^スあく^ス、^スりん^ス、^ス一^ス廣^ス、^スト^スみ
つ^スん段^ス津^ス活原^ス原^ス、^スど^スの^スは^スか^ス、^スご^スと^ス傳^ス使^スせ
ば^スか^スハ^ス京^ス紅^スを^ス、^スあ^ス、^ス男^スの^スあ^ス、^ス歸^スア^ス、^スト^スみ^スる^スな^スぐ^ス、^ス
と^スあ^スハ^スあ^ス、^スよ^ス、^スそれ^スと^ス名^ス、^ス留^スア^ス、^スト^スひ^スよ^スセ^スと^ス、^ス
か^ス御^ス度^ス、^ス名^スと^ス、^スう^スと^スと^ス、^スこ^ス、^ス人の^スゆ^スを^ス、^スう^スセ^ス

和うけめといふ、よもやハ人ののひよどりとし、室もま、山もうる
が、ものかうり年もよけり、これ人のま、山の尾へおひできく
すきまのまく、人をえとひて捕へとてりよ、やくをくわゆのう、
うじ、しままよ捕へざきほよをづくよ、ほよこちて、又ひ生のきて
まもと人又ひく捕へとせんば、又せんのあくまく、ほよ捕へきの
されば、さよ後、うづりよハ尾の後のあくまくをりよとなよびすハ
捕へくみたよアモ。そハ、山の捕へくまく、どうぞま
やく、女のまよをびくづきまよアモ、ながくつひよなびうぬまく、
ちめなびくづきまれ、ごそ、らとかくもとからくともわざくわのこ
えのく、ものひつよく、あつけふせきとなく、がむせれとゑぐき
を、げきとつるはり、おひくのりもり、ねうべ

由布氣爾毛許余比登乃良路和賀西奈波阿是曾母許與

比與斯呂伎麻左奴

ゆけよ。まことのうわざもあせぬひすくまつた
夕方をやめ、ちとおもんとおもんからくのむを延び、
けりかなるよほゞやとお侍ヨリおまきぬともうひがみふとのまう
こせぬのよす回ド、これいよそり、スヘシモウセなむつるといへ
安比見氏波卒等世疫伊奴流伊奈辛加母安禮也思加毛
布伎美末知我氏爾
あひみてハセヤシのいなとかわあれや志のまよまくまちがてみ
ま十一は説あり

柿本朝臣人麻呂歌集出也

思麻良久波補都追母安良牟伊宋能未爾母登奈見要
者追安牟禰思奈久流

志あらうかねつりあらんをいめのみよなみそつあをねあらう
まのみふとく皆り度ぬよきしるてのくたうめ、伊の村の度みて
おののみとくとくへ於某へ走サあ奇み、於某がうせどとりひと面ハ
而新と書きりす、その次は於母よみうるとくもんをふる新を書
こゝへ新よみうるときあればばいづれも墨手いつととあらまれれ
じ極むねつりあらんをとりふまきりとぞ、うまいせんとよみく、中
中よぎりうとうまつりきよまく、あをねあまく、
我を度や一めとつまくよまく因縁

比登豆麻等安是可曾乎伊波年志可良婆加刀奈里乃伎
奴乎可里氏伎奈波毛

ひとづまとあやめをいとくまのぶるとなむのまわとめでまなむ
あやめをは何うそれとく宿妻を何うやむとあるよきゆといふ

左努夜麻爾宇都也乎能登乃等抱可騰母補毛等可兒呂
賀於由爾美要都留

ヤウヤマハヤモのひほのくねとあころぶ、おゆよみうつ
あくじハ代名なるべく、あハシハ度淺く野也とぞれつれど、路
斧うそんすけ、あくん、キヨ卒のちの遠れどとくとく風のと
まをとて、くるかく、斧のまハ度浅くとくとく斜のく、由ハ母の傷あく
ねとくとく、母よ夕暮れちまく、通ハ遠くあれども多々をかくひて
もうくとく

宇惠多氣能毛登左倍登與美伊低氐伊奈婆伊豆思年伎
氏可伊毛我奈藝可牟

氏可伊毛我奈藝可牟
うあすけのをとせんじよ

うあすけのをとせとよみいで、いも、いつ、よきての、いは、うちきのん
植へまひまてをとよ、すすれ大河原の宇惠具佐ウエグサ、風よひのまの
まうやかども、ひをまく、をとくとく、そハあこぎて、泣きうらむ
を泣くよく、ひをまく、防人の立ちをりまくべ、いづ、いづ、
なきうん、なびうん、よよ、ああうづ、のうじよわづまち、いづ知むき
てのゆづち、まのまのまとよ、いづ、いづえ、めを氣にむき

古非都追母孕良孕等須禮杼遊布麻夜萬可久禮之伎美
孕於母比可爾都母

守信兒奈波和奴爾故布奈毛多刀都久能奴賀奈敵由家
婆故布思可流奈母

うべてな、わぬよすあしたとくのぬがなへゆけば、こうへうるなんも
うべてあり、説^{ウコラハ}ふ等者^ナこほすのをはほ良^テよをつめ、和ぬ^{ハヤシト}りよま
をあきよわぬとよまよづ、たとくの^{タリツキ}ハ吉月^{ヨシヅキ}とす、もよハあ^シト
ゆづなくゆげば、流^{カレニバ}去者^{ナシ}とす、主^シ徳月^{タケツヅキ}と月日^{ツキヒ}といふ、こう
うるたゞくは、嫁^{マダラ}が御^{ミササギ}よきとす、主^シ徳月^{タケツヅキ}の流れちく々く

或本歌末句曰。努我奈敝由家杼。和奴賀由乃敝波。
ドリカヌカヤユナハボ

は夢由の下可のまがくものわぬうゆうちはよくなづれやけどきゆねと
よまと上よ度れハトリキト佐祢奈敵波ヒツフミ同・、室キモ威人のいそく

賀由ハ由賀を下上ニ達シム、ウヌウツチクハトアリモトナリ
安都麻道乃手兒乃欲婢佐可古要自伊奈婆安禮婆吉兆
牟奈能知波安比奴登母

おもむいたるよしやくみて、おあれ、こひんなのちふめいとも
たゞよび坂とまが、そしゆほ人の引か、三木をくわれば、
もととらぬのこぎども、ばうへきりん及、あひめども
等保斯等布。故奈乃思良禰爾。阿抱思太毛。安波乃敝思太
毛。奈爾已曾與佐禮

とほりとほりなのをわふ。あぐもくす。あぐもくす。たまよのうよせられ
えりとりとまくめ。まくめ。こまのまくめ。まくめ。まくめ。まくめ。
あくまく、ホハヨウのまくめ。まくめ。まくめ。まくめ。まくめ。
け山。まきゆい。やくゆる。とまくめ。まくめ。まくめ。まくめ。

方解十四下 八
たう、こちのちぬこをとづきまへまのとのま、壁へのくのうとを交つて
つるちすの間まく、ちぬこあへ、ちぬのやあくつをとあくと、あくらへ
あくのきくとひづく、もくとくのまへとよつまく、あくまくへかやさきよ、
ゆきよるきく、あくまくへたかある門とくとく、あくとあくと
わくわくす、わくわくよくわくわく、汝ふくまつはよくわれ

あらゆるやうな事なかつて、あれもあれまよからぬものなれば
あつみじたまへよひせんのまことに、さうのほとよけに連うて
ゆく、あはるのほはまく相もるとき、かく信ひたがうのうと黙
多くよ意るがとくぬる我倍をりよ回じ。やつへるはあひどく年
あらゆるうめりあり

於保伎美乃、美已等可思古美可奈之伊毛我、多麻久良波
奈禮欲大知伎努可母

れは手のみとがくみかたまくはあれよすもきぬる
防人のま時のうゆめ、おほくまく、うそにあれのせきとぞふく
あるかとく、らむらの夜えとゆのほえ室もひよごうへ役のゆく
とりアサ

安利伎奴乃、佐惠佐恵之豆美伊敝能伊母爾、毛乃伊波受
伎爾氏、於毛比具流之母

あさぎあら、さちと、さづみんのりよよの、をもまくまく、せじいとく

柿本朝臣人麻呂歌集中出見上已詮也

妻や殊衣の被藍左謂えづま家のゆよゆいをさきて思金津裳
とあうてまよはせり、人廢る家魚の通帳より及み歌わるあとみ

れは生えまをすの裁えとゆとよぐ、くす毛乃乃と育ハ温られべの乃り
のほり、後の詠とを磨キ記エル

可良許呂毛須蘇乃宇知可倍、安波補杼毛家思吉已許呂
乎、安我毛波奈久爾

からこくも、そそのうちも、あらねど、うまくも、そそのがも、ハとす
毛十一射新ひき方ハ朱ぬ章衣襷のあもじてタゞくあれども、
て、ちへ緋人の衣の裔あはやうく、うらみへかえりく衣ハテ、
合ひうゆのあればりすく、一二の匂ノ不當とつる、うきへ黒スミ
或本歌曰、可良已呂母須素能宇知可比、阿波奈敝婆、補
奈敵乃可良爾、許等多可利都母

あはうげあらねど、ねまくのうくよハ不復を、うふへうたうアハ
言痛

比流等家波等家奈敵比毛乃和賀西奈爾阿比與流等可毛欲流等家也須流

ひるとけどけなへひのわづせれよあひよるとかす。ようとけやもけ

とけもへし不解くひのうはえとくふーあひよるはうよきおとくのつ

まうこせねのうへたとこあくとくせよまくとうくくもえ居すよとくせ

須家とまとよとく、先解易きく、まくいとむて解くとく、又解るとく

あくとまぐく、わくと行くいとく、がくとまくめかくいらり

安左卒良卒遠家爾布須左爾宇麻受登毛安須伎西佐宋

也伊射西卒騰許爾

あそきとくとをばよすとくよすとくよすとく。あそきせきよやいとせとくに

良ハ筋絆、麻首よまき、車ハまくとみを縫むけとくとくまくとくに

あくねが布巾とぞく布疋とぞく人馬とぞく馬とぞくでくらやの麻衣と今

都流伎多知身爾素布伊母卒等里見我補哭卒曾奈伎都
流手兒爾安良奈久爾

つまぎだちみよすひのととみよすねととまきつてごすのひくよ
つるがくまう桂河見みほくねとえ難くと、盆と手あくねよあくね
流とくとく事とたまくのねのととまくととよよのと、きくとまくの

てごののまほ改よりも、このはゆるやうをそひと云ふ、まくおとまと
東アリシ、あらはすらとアラシマリ、ヨルハシタリ
可奈思伊毛卒、由豆加奈倍麻伎母許呂卒乃許登等思伊
波婆伊夜可多麻斯爾

安豆左由美須惠爾多麻末吉可久須酒曾宿奈莫那
里爾思於久乎可奴加奴あづきゆみひとをよなまきかくもとぞねあくたゆふれくをかわく

古のうへまのかぎりて、うまほきく、鞆のうち
えまくは物をうめく、うまよむと經、ひとつ
ト來ヨト音の遠トホトきうど、傳トモトコトのきあひく、遠くゆく、
方のぬよむと経トモトコトをうきに、此の音コトを廢ヲシムよつらうき
席のも、わきたすとす、ゆき、をかうへ下チ宿マサニ敵アキラスをまつたく
まのくあとかねて、まよ、通スル嫌ハシム、廢ヲシムりをあひ、こま
教カミくとあいもき、空アモリかくそカクソ、
とよもとひづり、因モリまよこそが、アドススヘア
安藤頃酒アンドウカクサ

於布之毛等許乃母登夜麻乃麻之波爾毛能良奴伊毛我
名可多爾伊毛年可母

おやがての力とやまのすのうかはよひへり
わくもとハ生繁オフシミモ本の男まきも等ハモジカニトヒ、孝徳紀模騰
集登ヨトニおはまハモジカニトモキニトハの力とやまハ此本山ヨテ、ヨリモキトモ
ねりまく、少モハヨヨウキサマタ榮とヒラクテ、モハ真數ハ真ハ
祖數ハモジのまニハモニシハズルミハ、モモシリヒテ、物ぬぬが石もれハ
占えまゆめんやとくとよまきで、キのとみあらわしにゆけ
アモヒツヨヒト、ハモモジハ腰くわざれハモモキ解ジト、モ定
ヨリのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

を柿木ゆきより其のとよろくよせも

安都佐由美須惠波余里禰牟麻左可許曾比等目乎於保
美奈乎波惠爾於家禮

あつてゆみちゑはよめねんまやくみこきしよめをおほひなをはよお

あつてうちれ酒あさうよまちとハ汝とく妻のよ車一男よハ生れどま

與のよへらそよほとたまねば鳩の巣のよかよをくよくともく

柿本朝臣人麻呂歌集出也

楊奈疑許曾伎禮婆伴要須禮余能比等乃古非爾思奈武
辛伊可爾世余等曾

やなキニテキレ、ちえむれのひとの、とくよまくと、うふせよと

柳ヘ伐すとくいこむえのまるれもれとくせのくと別れとくよ奉枝は七うあ

うれすとやあみのあく川柳刈れとくスモサトモ川柳

乎夜麻田乃伊氣能都追美爾左須楊奈疑奈里毛奈良受
毛奈等布多里波母西都へ奉令葉裏一ノ事也大木屋西之助と申候
をやまめのけのつみ小さくやなきなめしもくもくなめしもく
柳枝ハとくよく根つるて生葉生葉のモ生生葉をなるといひて葉の葉の
ひなせめやうて秋中の條條の條葉の葉葉、うなづくとし吹吹と音音の吹吹
じとく

於曾波夜母奈乎許曾麻多賣年可都乎能四比乃故夜提
能安比波多家波自

たそちやもなをとこうまみむうつをの土ひのこやでのあひへたけハト
まくとく速くとくゆとこうまくとくやでハト役役ハタケハドハたうづ
板の板板かくせう今と男男よはんじうくすとあるいそれき室室も
八根根ハまくとく方材方材もとく葉葉の葉葉小枝枝とちくわなるかよ

トキノたゞよせも或キの付る所モ甲カニにて、麦芽の如く

シキの生アリトシテ、トモドヒ

或本歌曰、於曾波也母伎美^キ乎思麻多武^ヲ牟可都乎能思
比乃佐要太^ヲ能登吉^ヲ波須具登母

たゞよしむ室をかほすよある

兒毛知夜麻^ヲ和可加敝流氏能毛美都麻氏宿毛等和波毛
布汝波安杼可毛布

こちもやまやのかまてのすみづまでねとわ、そよなあとのそよ
こちも山聲^{アラシ}も、そがつもで、も相^シのせのほけとひくやうに松り、
ちゆるまきと、下ハ屋んももとと、山へゆくのねりすとあります。
チタニ和名抄雞冠木 賀天乃木辨色立成云 雞頭樹
カ比苗提乃木 今案是一木名也、木ハちやど々黄變搬
千尋手より久ア

伊波保呂乃^ヲ、穢比能和可麻都^ヲ、可藝里^ヲ登也母伎美我伎麻左
奴^ヲ良毛等奈久毛

いそほろのそひのわのまつがさふとやまみのきよさぬうくわくとくも
よ伊香保^ヲ能蘇比乃波里波良^トよあよめす、モ體の方のゆの
ゆねをまでと限るく、かへ崖カハヤあれば、そひの岩ね限アトツクナシ、此伊
波保の波ハ何^ヲすの涅れ^{アリ}く、伊波保^ヲやまとん波^ヲ、波^ヲのゆのゆ
婆奈乃^トとす、車^{アリ}ハ武藏^ヲ安房^ヲの橋^ヲ取^フハヤヌ^{アリ}く、其^ヲ
ちゆぐべ、モ次^ノ安波半^ヲも安房周^ヲの每^ヒすえ、も及^シ必因不^ノの知
られめとす、とくとく、それお^ハ上^ハ所^ノのり^ハ居^ム、とくとく^ハ居^ム、
上^ハ根^ハりとりとん^ハ居^ム、男^ヲの後^ハ一^ハよ、とくとく^ハ居^ム、
ことのほの後^ハ、室^ヲも^ハ上^ハ二^ハ限^リの序^ヲよ^ハす、ちくま^{アリ}、^ハ居^ム、
きと、おひて^ハ城^ヲも^ハ、若^ハと^ハ待^メよ^ハて、限^リや^ハ、然^ハあ^ハが^ハ本^ハゆ

ふうとうり

多知婆奈乃吉婆乃波奈里我於毛布奈年已許呂宇都久志伊氏安禮波伊可奈

たちをやのこばのをなめびおもよすくとくうつうじであれひいづみ
和名抄武藏橘樹郡橘樹ミタチ奈乞ミタチ、古婆乃室のふちるべーはすかへ重
女のうちあるをありとりすよが、せりまくらがまよらんをあうらんとりよ
をなんとりよあこれゑあ、うつゝハモモ、あれハムモハ乞吾も

往人シテヒト

可波加美能禰自路多可我夜安也爾阿夜爾左宿左寐氏
許曾已登爾迄爾思可

かたるみのねごたゞや、あやふあやよとねむてこそ、ことふです、あ
かたうもとてけのどきどきと、根白まるざハ川の岸に生長する、ゆき時

先大ねく、おのとく尼ゆゑと根白といひちんじかとあと音をく、
かや、あやとさとまおくる序く、あすよハあまくすす内く歌く詞く、
まねりうり、さへ度を度す度てこく人をひきかれてこれと、可ハはく、
上のことくと傳ぐ、

宇奈波良乃根夜波良古須氣安麻多阿禮婆伎美波和須
良酒和禮和須流禮夜

うなづのねやらうことをげ、あま、あい、きみハわまもと、われとすれや
ぬあづのあきことう、やう、ハ妻仰、浦ほる生るる葉ハ海く、あじてね
のわづきまどりすとどり、又のびるよ、葉川のせごのやはく、桔と云
やもうら川のすとよとあれハ、ともやもうハ泥すく、りそひく、うき
されば、瘦むらこ葉とひしもく、うもむきやもはづの株とそくもれ、
あまくあれぐ、古今葉よ日かくよくのあすくあれざりすかちう、

わちもまへきのるをぬき、かくもれやへ、わくらんばとむるかく、これ
むやといふゆ。

辛可爾興世和我可流加夜能佐補加夜能麻許等奈其夜
波補呂等敝奈香母

をのふよせわづるかやのさねづやのまことあざやハねろとくやとのも
きつよじや國よ著よすこくもあづやかきハほの多能くとく根莖くそれよ
寢と活りまの匂くうる、あくべハ草に蒸食奈胡也我下丹ゆくねど、
古事記辛斯夫湧麻余古屋賀斯多モヨリ同ド、ねろとくちくハねん
といもくくしゆく、あくべかまくやうるハねんとくとづれきと恨む
也とおへひぞき、室もち草よのうせハ室へはくらむ、君べたがやをぬ
る阿モトのくまく莖と女みたとく、よせ井もハ引りてあじきせり、
たくまきハ女を我意よせあじきやんとしぬどく大まちまねやとく

牟良佐伎波根辛可母辛布流比等乃兒能守良我奈之家
辛補辛遠敝奈久爾

もくさきいねをかくもするじのみ、がくけとねをくへなくふ
紫草ハ根もく衣と薄ふるとすくともくねくとそりして君ハ寝る
もとなくちくもくねくもくちくふか、立れども共寝もくめをちく一果、
かよほくもくねくもくちくふか、立れども共寝もくめをちく一果、
辛敝ハ坐玉むつたきをものもくく、かくこそ極とわづ多奴之岐辛信采
とくのハ樂もと極りて程詞称辭竟奉ヒアマ、其の拂遠を極ヘ
足し、紫草と一果もく

安波辛呂能辛呂田爾於波流多波美豆良比可婆奴流奴

留安守許等亦多延

あはをのをうたよれり。たまみづ。ひりいぬる。あをこどゆくえ
あらと安房園のあちき。ト、ろハ肺病。モ岳の聲の口よまく。自ら
まくるあれ。れちもと。あ、たゞごづハむくよ。アドム。とぎく。あわ
むすと。よハ佩字遠す。武義の多摩川と。多摩安川と。唱すかく。
度と姿の湯をと。もとをアリ。シズハ真蔓まれバ。即もうづと。た
ぢごと。りゆく。あハつじき。ソラのねる。もと。うれ。そかつ
きりづく。遠もく。とく。ひう。ばめく。の内よす。が。あと。これ
くまハ君と。言葉絶え。なく。こゑと。つ。びき。ふうと。ま。い。も。く。く。れ
き。よ。の。ほ。へ。た。く。く。の。す。あ。の。後。され。れ。ま。く。く。れ。け
登。和波佐可流我倍
和我目豆麻。比等波左久禮持。安佐我保能。等思佐倍。其

わのまつまじとやくれど、あさづゆのとくもと、わのまつのるう
まづまは真まえ、あさづゆのとくより、あらあ麻絛とよのあより選
りかへり。已其登ハこそとて、年よとく甘びとし、ゆうひともと
つあくとつまもんとあひはれき、されどあくちまとよみくばあ
みかやゑのひじくわやんとひづくわ、女とあくちづくわばれれざや
と引女のひよたくよあひちづく、さてこそとひこたとけ、
そくの年そぞれひさつづけ、せうとよとく室もちうちづく古の
みづ向と入れそくくわづかひまきー、すみ三の向とれのとよびかへアキ、
をく向と向の例比ある、あやまけひとづまうてよごめのひづく、との
向がゆ向の序と考ふまきー 目豆麻めづまとて、目うまくつまあ、かの日のか

安齊可我多志保悲乃由多爾於毛敝良婆宇家良我波奈

乃伊呂爾氏采也母

あせかたもよしのゆよぢもがくけふざきもあつうまでせんやも
四門あきうもあれど齊とさのゆよ用ひるほき、あまき地名なじん
ゆ干はあとのゆきふらも月をうきと、ゆゆすのく、やへつよのぐり
ふきよハシト、折てゆよすれりれりよとちくうくくに改つむ
波流敝左久布治能宇良葉乃宇良夜須爾左奴流夜曾奈
伎兒呂守之毛停婆

はるばくすがのうやまぬよだなきこゑ
ううがまをとくことひくとくわくもへ
子等と思へばくほ候よあるとて無のうだくもへ

宇知比佐都美夜能瀨河泊能可保婆奈能孤悲天杳眠良

爾比年路能許騰伎爾伊多禮婆波太須酒伎穗爾氏之伎
美我見延奴已能許呂

おもてのうへとくわへ

多爾也婆美彌年爾波比多流多麻可豆良多延武能已許
呂和我母波奈久爾

たふせがみえよをひだるだまにびらたえ人のこころのもの、などか
きナ一いも、おとくよちくるとく、まほよ、車ナ二丹ほゆの大にのしのやねづ
くまくまくとひときりあれど名化人のすとひみそくわ、せぬざすよ、
かくうくのやう

芝付乃御宇良佐伎奈流根都古具佐安比見受安良婆安
禮古非采夜毋

多.久.夫.須.麻.之.良.夜.麻.可.是.能.宿.奈.敵.杼.母.古.呂.賀.於.曾.伎.
能.安.路.許.曾.要.志.母.

良比古安

美穢良由久君母爾毛我母奈家布由伎氏伊母爾許等杼
比安須可敝里許武

みえらゆくくすじもすす。とよせきて、いふかどひ。あむかすし
ありととよすとよ防人のうちへん、をせみえりまうすうさる
くらきうすうすあそりてぬよこくひきあよせすうちく
安字禰呂爾多奈婢久君母能伊佐欲比爾物能安字曾於
毛布等思乃許能已呂

あをねつたあびくもの、いとよひのをすりよとのみごろ
青衣もろハ妙舞、上はきのましやうを舞ひて、下をかく
計古の、あこらは年ごうととす日、物能の下安ハ衍文

比登禰呂爾伊波流毛能可良安字禰呂爾伊佐欲布久母

能下安
衍文

能與曾里都麻波母

ひとねうふいをもえのす。あをねつよいとよすくのようととづますす
ひとねり一歳、ろは妙舞、かのうふとおをねりとすく。あをねつよいとよすくハ女
のうまくめ舞へくちのまへ、女のうまくめでいま、舞をまめ、ひとねり
うまくめとよびくせんく、一歳の歳よまハ用をれど、者をそりす
つきて一歳とばつまく、よのいうわよ面をりつきとくまくめ

等伊比之兒呂婆母

ゆすれがみやまとくめにぬくの、あせたまうと、じくとく
美山の真山とくほむる舞の、あまくべ布の、かくねく相門をと云ふす
ねれとお能くいす、まきののあ布の、我中、わざやねる時あ
うとつひくはの、多くはす男のうひきて歌ふ

多可伎禰爾久毛能都久能須和禮左倍爾伎美爾都吉奈
那多可禰等毛比氏

たまきぬそとのつとのそわれとくまよまあたうねとまひて
みにハまをくも著やくもまよ信くわれとくらすつきくらへま
んと外よきお見もとまち廢ともひてとそ

阿我於毛乃和須禮牟之太波久爾波布利禰爾多都久毛
牟見都追之努波西

あづおものわらひをたはくよますかよたつくとみつともぬせ
神面のまむくはりえ太へ付とくよよあるはよるあありとむれしめ
こじられれどようべ、事ナ一面形のまよもくとくいよ因、とく連ハ
で年経るまよもく歲のまハ無難よゆれあくねと、達き帰きてハま
のみ既免あれ、まきういつりとまよつてハとくのまよ屋マリヒロゴトキ

對馬能禰波之多具毛安良南敷可牟能禰爾多奈婢久君
毛牟見都追思怒波毛

つまほ、考ふ、あ、か、か、の、ほ、た、ま、び、く、も、と、み、つ、ま、ぬ、ば、も
妻仲をまぐづ下ま、あ、ま、よ、ハ、あ、ま、く、み、下、よ、ま、く、上、の、巻、よ、ま、け
ま、と、刀、く、き、の、ぐ、く、と、あ、る、と、よ、り、つ、り、或、人、あ、ま、き、ま、ハ、あ、ま、ま、の、こ、い、す、翁
の、ち、ば、く、く、と、あ、ま、く、も、く、く、く、ハ、細、痛、の、累、く、く、く、ハ、ほ、む、も、く、く、
ま、り、ん、覺、く、と、あ、ま、く、と、そ、く、の、ね、ハ、よ、き、ね、の、坂、と、神、の、佛、坂、と、
よ、れ、ば、も、あ、ん、く、そ、の、防、人の、別、く、時、上、の、ち、と、海、が、よ、み、一、ふ、こ、く、く、
あ、ん、ま、い、ん、對、毛、の、夜、の、ま、と、豆、と、へ、形、く、と、ぬ、も、く、く、さ、の、神
の、夜、の、ま、と、達、く、と、く、大、の、ま、ま、う、と、荒、生、す、う、あ、の、夜、の、ま、ハ、そ、れ

じきのよふはとつまわつね、もくとくのほをく具の富吉
をまれ、延喜のうとくちかえど、於其御、がほひとぐ、忍官が都、化波さ

「本婆是也、すよ用べ」

思良久毛能多要爾之伊毛平阿是西口等許已呂爾能里
氏許已婆可那之家

きくのたるやいとあざくらとくのうて、くづのゆうけ
きハ必後くまればまくとせり、あせくらとへ付とくとくく、
くくとくとくのア、家ハ伎ニモリナ

伊波能倍爾伊賀可流久毛能可努麻豆久比等曾於多波
布伊射禰之賣刀良

いのへよくあるもの、あめまづく、ひとくわづば、いぞねーめとくら
そくの向とう下ハ萬失くもく、やまうけ合せ、可努麻豆久の向ハ

との上野哥の伊香保多はあよく、うきとしるの向うく、そくにき
くそく、うくれはまの向く、乱すをよがく、くもんと、接合せり、人
くくのまく、まのまく、正き事と給の。

奈我波伴爾已良例安波由久安平久毛能伊氏来和伎母
兒安必見而由可武

なみはよ、うれあへゆく、あとくまでしてこわぎとこ、あひみてゆく
これら、噴らす、あへゆく、あへ行へ、焼がけ、まくもゆと、焼、まくも
ての、くとく、れがゆくと、よきと、あとその焼、いでこひそく、そく
出されと。

於毛可多能和須禮牟之太波於抱野呂爾多奈婢久君母
乎見都追思奴勢波年

ちよのやうり全す、おほのくよ、たまびくとみつまぬく

大野ろのろのゆき度ゆどり。そはせよ。我れも乃へておる。お
の威をもとへ。されど、うひ。御事と見えず。まことにあやせく。よし。そ
ひのあと。そはへ。却れ。そと。あらん。と。そまく。

可良須等布於保寧曾杼里能麻左低爾毛伎麻左奴伎美
辛許呂久等曾奈久

「それき、をもうけまきはうへやまきそ、毎日あるちくあ居る所と見て
カ、居りぬるのうすれうともとてす」

麻乎其母能布能未知可久氏安波奈敝波於吉都麻可母
能奈氣伎曾安我須流

まをこめ、おみちよくて、あ、なべ、おまがものなげま、あ、ぶらる
頭宗紀耶賦能之摩智枳、ほよ十山の莫ごとくじらす。ちゆひめあみりと
筋トリと筋く布くふす。薦のよめときとをきとて、ふのこのみみハ
近きく保くことのよめくをまのみよて、あらうとく。中つま鷹ハモ
るけきひく。近きわと遠きわと、あ、ホ、ホのほく。君を
あくと、いぞれれど、のみと、まねいおと、ハ、ま、を、か教法の、
水久君野爾可母能波抱能須兒呂我守倍爾許等於呂波
敝而伊麻太宿奈布母

謨
敵ヲ敵

みどりぬよかのをやのす、こうづくよ、とおうちく、いま、ねなすす
武尾の秩父郡は水久奥利とす。雪き、りすの泥と、よ、ちやのす、鷹
の羽、すきのめくと、よ、けをむと、御、さきもむはす。鷹も、あく、夫伎の約脩
ちもと、抱る鷹も、よ、こ、望る鷹も、言聲も、べて、これ、れ鷹の約脩されば、
抱もといす、波信ハ、せひ、もと、近る。わまよ、ねぬと、延も、も、の、の、
がくよ、あ、が、き、ま、の、き、よ、こ、く、か、し、も、と、く、ろ、く、は、あ、の、オト、あ、秋
ユキ、も、よ、く、く、と、く、も、く、男の、身、ひ、ま、と、く、す、か、こ、く、み
と、く、ろ、く、く、よ、そ、く、あ、い、れ、き、それ、ど、ほ、く、と、や、あ、く、室、も、く、く、
めの、ぬ、ハ、鷹、も、く、ハ、飼、鷹、ハ、そ、鷹、く、テ、陸行、ふ、使、も、と、飼、も、く、く、
向、ハ、於、る、の、序、二、鷹、の、あ、く、ハ、お、ろ、う、く、飼、が、や、く、も、と、へ、う、
え、く、う、ハ、や、よ、う、の、く、ね、ん、く、り、ひ、く、い、ま、く、わ、ら、く、え、な、ろ、ハ、や、く、も、く、み、の、く、
と、い、す、ま、九、ち、う、の、辞、堵、不、起、と、く、て、い、の、と、ハ、と、よ、り、く、く、ハ、ニ、と、見、る

奴麻布多都可欲波等里我插安我許已呂布多由久奈母等奈與母波里曾禰

おまへよりをかものかころやもとのとあひまづくりとおさうべきぬのし
ほきよすと遠くゆきあを溴とよ。正月、後年と年、小母ちきやくとゆ
やさうどくハ十量の長持てをもととてやさうもとつゝあは
きをなむべ。まもよそとく水原、かづきのく居をあれどもてやさ
うをひ只もぐのれぬく、うのまくがり、と古そよは新いと、とみれ
てすまのまくまく。小野のまくやまのまくりまくはあら、二
の向ううの向つて、とくらむべ。行くの別もくべ。一のえハ行文之
水都等利乃多多武與曾比爾。伊母能良爾。毛乃伊波受伎
爾氏於毛比可補都毛

みづのたへまじふ。このまきのいぢをせむて、おもしのねても
水きの花はよもひがまよやうてよ、がはせまよもじよ。くまじき
せまゆ、よもひやうてよもじ

等夜乃野爾。平佐藝補良波里。平佐平左毛。補奈敵古由惠
爾。波伴爾許呂波要

とやのぬをときねうはわをもとむねまくこゆるははふころハ云
上ハとまくとくさんるの序こすとあくやんとく葉うとく
うづひらむとと金ふくをむとよみれを將て歎くも多きよも
きもきりつての口さるつましもと即ち度のよどりつべ。又和移
下急印情。鳥矢アミ。シミ。のと。と。きぬう。ハ免ねくいへをもく
ハ行く。もくかくのよかく。めづづく。もくもく。日。とく。ま
まく重慶。と。かく。既。ま。づ。と。ま。す。情。う。と。と。要。に。れ。と。
聞。よ。そ。と。た。よ。か。既。よ。已。良。例。と。ひ。約。と。り。よ。や。く。母。う。要。と。ゆ。う。て。徒。よ
ゆ。と。道。う。と。よ。も。な。る。ー

左辛思鹿能布須也久草無良見要受等母兒呂家可奈門

欲由可久之要思毛

まもく。あ。ふ。も。や。く。も。じ。み。え。ぶ。も。こ。ろ。ぶ。か。ま。じ。よ。ゆ。く。ア。ス。ー。も
よ。ハ。替。え。よ。味。ハ。ア。ス。ー。も。じ。み。の。つ。き。と。行。け。ハ。ト。ア。ー。と。う。の。ち。つ。既
ユ。ひ。り。ゆ。く。ハ。や。く。と。と。も。家。ハ。家。の。ほ。も。ー

伊母乎許曾安比美爾許思可麻欲婢吉能與許夜麻敵呂
能思之奈須於母敵流

い。お。を。こ。う。あ。ひ。み。ふ。う。あ。ま。よ。じ。き。あ。よ。と。や。ま。ぐ。ろ。の。お。た。な。す。お。り。ー。る
ま。う。ひ。き。み。校。の。妹。う。る。の。あ。う。ど。多。ひ。男。と。バ。シ。男。の。廉。の。あ。く。う。る。と。り。つ。り。
よ。小。う。角。の。と。田。う。ど。母。が。う。う。も。と。と。よ。お。横。う。べ。ハ。方。う。そ。ろ。ハ。幽
姉。い。ほ。模。山。ハ。せ。あ。う。ハ。あ。う。だ

波流能野爾。久佐波年古麻能。久知夜麻受。安乎思努布良
武。伊敵乃兒呂波母

はまのぬよくとをむこまえ。そちやます。あとまふらん。このころともも
弱のたまもむづとすみをきとみてゆまし。娘がとおなじて、娘よゆく
をうらんと防ぐのうまなま。

比登乃兒乃可奈思家之太波。波麻渚杼里。安奈由牟古麻
能乎之家口母奈思

いのこのかうけたひもまとわあやゆむこまえ。とうけくわたり
うけきもばかりく里つね。をまくを替。あゆめむ。是惱む。上の
門のはやのまよとく。あきハ達行ふ伎よく。さあやむく。アキムの
あればたまく。セウ。さうめどうく。うすく。うのまのうれどもく。
をいはまく。と室をもがく。とよまく。

安可胡麻我可度氏。辛思都都伊。可天爾世之。辛見多氏
思伊敵能兒良波母

あうごまうかうてをつづりでぶ。ふせりせり。ソのこくらまし
上ニ白ハ馬のる處の戸口と身と身。ども歎き多く。ひどくさんるの處。
そそハレ。も様を尋ねり。多く。又たゞ。もと。うけゆが。想へさま
と思ひゆく。ばく。

於能我乎遠。於保爾奈於毛比曾。爾波爾多知。惠麻須我可
良爾。古麻爾安布毛能乎

ちのぎもく。おほよなぢり。こに。よも。ち。も。も。ま。く。の。か。く。ふ。こ。あ。よ。あ。す。の。
れ。能。ハ。殊。が。み。づ。つ。已。し。よ。も。辛。ハ。即。夫。と。よ。お。や。よ。ま。ゆ。ひ。そ。ハ。る。の
く。す。る。ほ。ろ。う。よ。お。よ。す。る。の。れ。と。教。ふ。る。小。そ。み。く。ら。く。ハ。男。の。ま。く
あ。そ。ね。す。も。萬。ま。一。え。の。ほ。ひ。直。む。う。す。る。を。う。ほ。う。て。よ。う。く。胸
を。う。され。ば。つ。て。モ。づ。せ。と。お。う。き。う。よ。う。む。ぞ。て。い。き。す。れ。く。り。ま。ん。
安布と。ハ。ま。よ。答。ま。と。ソ。て。や。い。布。信。ま。と。べ。る。

安加胡麻乎。宇知氏左乎妣吉。已許呂妣吉。伊可奈流勢奈
可和我理許武等伊布。

あうこまをとうちてととづき。うろじき。いのちのせちうづ。わふくとつ
さと門のさへ多後ふく。をびきハ信まよをびきゆきとすとつす門
をもぐーしもとおでりぬ。或ハリトドメシもと。づと門。うもねよ。うよ
しゆく。ごくもとよよひく。さあくとあくとくろもとくてあそびて。及
エミツク。まんとりよ。いうずのまく。がどうさんとすはな。かんとくらんとくら
ん。びきのひきとつん。序のくへ。がどうさんとすはな。かんとくらんとくら
ふことをあくえ。さ。うよ。ひうまの男ぞとくよ。うよ。うよ。うよ。
久敬胡之爾。武藝波武古。宇馬能。波都波都爾。安比見之兒
良之。安夜爾可奈思母。

敵ヲ敵
ハ誤字
行文字

くびく。むすまじこまの。ちづるあひく。から。あよかな。も
え。ハ馬塞の難。ごよけ一二の間。くと。上向す下戻。ちる。も。ま。不
いつら。がきのかの麦と。既す。と。既す。皆。の。は。の。は。の。ふ。と。く。と。い。よ。宇。行
ある。く。右。る。な。ま。く。も。く。ハ。年。か。よ。小。湯。と。か。く。湯。と。湯。の。こ。づ。り。
さ。く。を。ひ。ば。よ。い。よ。う。な。も。す。ふ。と。れ。マ

或本歌曰。宇麻勢胡之。牟伎波武古麻能。波都波都爾。仁
必波太布禮思古。呂之可奈思母。

セテ。ま。せ。そ。く。よ。甲。み。い。ち。ハ。新。唐。ニ

比呂波之卒。宇馬古思我禰氏。已許呂能赤。伊母我理夜里
氏。和波已許爾思天。

ひろ。を。う。ま。く。か。ね。て。こ。の。み。か。と。や。ア。と。て。わ。こ。て。ふ。と。て
け。ひ。ろ。を。う。ま。く。か。ね。て。こ。の。み。か。と。や。ア。と。て。わ。こ。て。ふ。と。て

さよく一枚の舟船とよびてとされき、東沖ハ度々一弓けの舟と云ふ
とひす、室もはけ舟と向とひきそく石とちぐらるるは多く、モリの度きと云

きよく、さよくぬづやうやうての底ハ豆の湯すくやうつもんといひ、ね考べ

或本歌發句曰。宇波夜之爾古麻宇波左佐氣

山小木舟きずへるのまくまく走りて、急げ。さくさくと舟のくわへ
さきにけはきらをあけとゆる

安受乃宇敝爾古馬宇都奈伎氏。安夜抱可等比登麻都古
呂乎伊吉爾和我須流

あずのうよこまとつまぎて、あほのどじとまつころと、牛すわがくも
あずハ開塞とく、田ごとのるのくどとのすとあらわれき道下うちす鏡よ塙
崩岸也、久豆礼又阿須とくもふ俗なきかけの危まくとひす、もともくし、
あずかうじがをくあれど、うすとあややくとくと、麻都ハ都麻の下す

左和多里能手兒爾伊由伎安比。安可故麻我。安我伎宇波
夜美許等登波受伎奴

さわくものてごよいゆきをあひ。あふこまが。あ、なきともやみ。こくいせん
さよく、すゑく後河すとせみも、口す時よたるく行きつゝ、すて改むひ、
ふきはせ接く

安受倍可良古麻乃由胡能須。安也波刀文比登豆麻古呂
宇麻由可西良布母

あどぐうくまのゆこのも。あやどもじとづまうと。まゆつせくつも
なみ安受のうすのもの威をれ。因すのひもくう遠つてのえ。あざべのべ方主、
うへ自へゆのもばやちもすとひめのすと。あやどもあやづもれいと、

まゆせらすのまへ多後てゆりくせりりす

佐射禮伊思爾古馬辛波佐世氏已許呂伊多美安戎毛布
伊毛戎伊敵乃安多里可間

もれづかこまをもとせて、こうじみあがむいとびのあくづかに
もとせて、まきらせて、くすじとひのきのあやめば、まくひりくちと
よみかたをほりのまぐわうとくわぬが、のこまのくねどりもあくぬう
武路我夜乃都留能都追美乃那利奴賀爾古呂波伊敵杼
母伊末太年那人爾

むろがのつるのつみのなむぬよ、ころをいで、またねなくふ
まきかたは陸奥よごづのせの堤とりよし、うのびのき、むろのやーまく
よみーぶをは陸奥よ有地もく、あまくハ活地もくとおとづり、及ニ室の
ハ活ハ下附とそればやく、まくいはうかよれ、ばくのく、おはばだる

一後きくと、亥の先もふよきく、人朱ゆくとて、まくねくゆくと
あはれれれど、くとまめやーまくせんは活地かくー、亥仲ハ甲斐よ都
苗原モ、つるのせばもこきくとく、あ、行考ー、かみのくへ及ナク
阿須可河泊之多爾其禮留子之良受思天勢奈那登布多
理左宿而久也思母

あもかく、さくふざれるを、まくとて、せうかとすうやくねくやく
あもかく、大和のゆはすうと、まくのくとくのほくとくもたけうと
いしき、更級日記古をよむとくとて、まくのあもいをもあも、ほくとく
ともとくわく、これどくよ二そはは可川とよみられ、东よも大和と田名の
川よくなまくー、さく鷹と、男の人のまくとくぬとよ、せばまうて、なまく
殊名称きのなねのゆき、六帖と狂うハ座へも、うてよもみくす
きものとよもくよーき

安須可河泊世久登之里世波安麻多欲母為禰氏已麻思
乎世久得四里世波

あやみかせくとてあせばあまくよもあねてこまとせくとてあせば
かく親きのせきとももとわくあぶくあねてこまくハ率の度てまく
まくとく

安宇楊木能波良路可波刀爾奈乎麻都等西美度波久未
受多知度奈良須母

あをやきのをらうかはとよなをまつとせすどくまんたんとだなりも
折のサオのほるりつせまくは水もまくはもみあんたらとくす
ひとハ汲もはと待してまくちのいとまくしてせすとるをよ
主よどくところの男をも

阿知乃須年須川能伊利江乃許母理沼乃安奈伊伎豆加

思美受比佐爾指天

あぢのむむじのひうえのこもやわのあれきづうみぢひまくと
筆毫の極くひきのへにねはよまくほまくおもふよみが、不ハ車輪よみ比名をもぐ
上らハソセキ初もかこのまあごとくよまやか、不ハ度を知と遲よむ
奈流世呂爾木都能余須奈須伊等能伎提可奈思家世呂
爾比等佐敝余須母

たるせうよひつのよしとたすいとゆきとてがくけせうふひととへよゆも
嘵漱くろは幽婦こづこづみこも本くづのほれよるやくまの人のいひよ
みたよくづのよそとハよゆ

多由比我多志保彌知和多流伊豆由可母加奈之伎世呂
我和賀利可欲波年

たぬひづとくほみぢやもいづゆもがくつきせうづわすりかよみん

たゆひぎ、越あるあみ代え、車を走らめぐり、いづれも何所從次。

卷之三

於志氏伊奈等伊繩波都可繩杼奈美乃保能伊多夫良思
毛與伎曾比登里宿而

阿遲可麻能可多爾左久奈美比良端爾母比毛登久毛能
可加奈思家乎於吉氏

麻都我宇良爾。佐和惠宇良太知。麻比等其等於毛抱須奈母呂和賀母抱乃須毛

安治可麻能可家能水奈刀爾伊流思保乃許氏多受久毛
可伊里氏禰麻久母
あぢらまのかげのみまどふゝほのこそれもとすうりくわねましを
凌々々々入海のひきと人まのきとぐす壁とよ海たるくじりう、許氏多
受の愛ハ家の後、ちづれにてたゞくつうと御ご子、娘が娘庶よりねくみ
さくが人まの痛くともあくもうとあやびむきちくべくとあいとれき、室もまくと
のうへりくの序々入海の入てとてとてとてとてのう久々之の居まく、そてたまくもが
まく
まく
まく
まく
伊毛我奴流等許乃安多理爾伊波具久留水都爾母我毛
與伊里氏禰末久母

いわゆるところのあつやま、いざるみづともござよ。いやそねまゝも
臂もとちも、はぢもくらもとくらも、そればまくらもとようじりもと
ゆふとと獨れり、奥久ハ久具の下よよまれとゆまハクアラミセシ
谷具久 あく いづほ

麻久良我乃許我能和多利乃可良加治乃於登太可思毋奈宿莫敵兒由惠爾

まくらのこぶのわみの。かぢのぬけた。もよねくこゆくよ
まくらある。院よか活か伊ハモモと。日をちもと、くように
か活よりと。アバ、をれきてへ。本とて。かはのくやくよ。もえよ地
あと居る。今繪とくす。ほくか。またまくら。せらきもくら。さくら
のうと。人をよび。まへね。せぬ。まくらのとと。
思保夫禰能。可禮婆可奈之。左宿都禮婆。比登其等思氣

安波受之氏。由加婆卒思家卒。麻久良我能許。賀已具布禫。

雨伎美毛安波奴可モ
あひすてゆの、をくまくらびの。こがとくわゆ。あひすて
あひすて。あくともとうりあひ。女の御まくすりよヌ。えも
き里よしむかくもぐ
於保夫禰卒倍由毛登毛由毛可多宋提之許曾能左刀奴
等阿良波左木可母

麻可禰布久雨布能麻曾保乃伊呂雨低氏伊波奈久能赤

曾安我古布良久波

まごよくふのまうほのじよよで、いたちくの子で、あくべくとく、
せ全ハ浅とつ、吉備中山はちくと浅ともいかな、まぐわくもあ
いもがく、丹生ハ和名村上野甘樂郡丹生てと、こうるやの典、もるて
おちへ浅とよき一の尔布ハ土堵土のよかよぶのろとなる、ちく、
え丹生の色を出るをもく、ひと歌ハキよたとよ、ま、ちをすんばくに
いよのくとく

可奈刀田宇安良我伎麻由美比賀刀禮婆阿米乎萬刀能
須伎美乎等麻刀母

かなくだをあらかきまゆみじのとく、あめをとまとひすきみどらまどし
かともハよき、別門田すくがののあちう田とよ、あくびきまゆみくハ
荒木のうへ、ゆの田よすあくびきとづけ、あくびきと荒木のうふ

・じひちく、うとりアドウリと云々へ、されど是ハ初よりテキナヒ、西のう
ちもやふらのうと文ヘ、よハ左とあくね、由美ハアキの字うみの邊に
あくね、田ハ考ト有る歟カテ、がきあくねと荒ぶきとそ、すす草と梅もすそ
るところ、あきとさ、接もとひづか、もとうくらうく調へて、旱むれ、極めて、
歎ニ歎と詠あむれバ、とすて序とせしもく、比々力ればハ日之照れば、
あくを萬刀能須ハると、おもへきとらまくハ君と待し、上の刀ハ氏とをハ
ト、下二つの刀ハ都とをり、等ハ即辟へとおのぞえ、大手が、まゆみハまゆむと
をすくまきて、まゆじハセの干ヤマトとすゆ、ハ、まゆみハ地の千尋れてとまき、
ちのよか、いせのを人うど、豆の旱よ加つぬの稀ととまふと云、豆旱のすく限て
ひすくれば、まゆハまゆもす、地の干ヤマトとすゆもまゆべー、又よめやまとよ
えりあり、れりよもとゆみと因もなまぐーとす、れとく考べー

安里蘇夜爾於布流多麻母乃宇知奈婢伎比登里夜宿良

年安乎麻知可禰氏

あやそやよおつるたまとのうちよじきひよりやねらへあとまもかねて
夜の麻のぼり^{アリツバ}、荒僻^{ハラヒテ}田をまぐー、空もハ夜^ハ沿^スの漫れありそまよハ必^{アシ}
きく、麻^{アシ}ともちうといす、もと萬のあく^カとちく^{アシ}、すく^{アシ}めうらん^{アシ}、
比多タ我多能伊蘿乃和可^{アシ}未乃多知美多要和乎可^{アシ}麻都那
毛伎曾毛已余必母

ひたゞの、そのやうの、もみじやをこのまゝすきぞく、よしも
ひこゞ、せきこ、寺十二變太の、にほとよもや、わのえハ和名村海藻述
木朱俗用和布とモドリと、一、もやみの磯波のまゝれぢびく、ぬづ黒いれすと
ほり、まくわ、群、つるまき要ハれれぐまく、まくらへんとを、りよ
りあきふまく

爭於毛比須吾左牟

こすけのうかせのあどまうかまつらわれえじもとせん
武兵と十兵のあそしの葛竹取と小菅とりて入るまで、六里半ちれと
ときちく隅田川とし、あさよとくさくにいす浦といへば、うとよもん、あ
まうへ行と為とうとゆえ、梓らまよむまやかくもとじつと間だ、さう
浦の角のとりづりはの匂一うれや、用ひゆきもの物たるものよりく、何をば、
風のまゝゆく、ばく、うとひいことさんや、どうひのやううかなきやうかりえ
可能古呂等宿受屋奈里奈年波太須酒伎宇良野乃夜麻
爾都久可多與留母

予と翁同よほゞよ、夜々月うよけがくをすすねぢやあくとちぢみ。
和伎毛古爾安我古非思奈婆曾和敵可毛加米爾於保世
牟已許呂思良受氏

わざしこよ。あがこじまつぶさわく。かみよかほせん。ころきらむく
翁後敵一卒惠よ作をよくとく。そりとハよの作和惠と曰。内とえゆれ
このことハ。かへりす。里人トシテ。ひまことギミ。よよハ神の坐す
とりひきしん。ちるらとびん。とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
加采一本加采とく。ひづれうをちくは。お解さう。お考へ

防人歌

於伎氏伊可婆伊毛婆摩可奈之母知氏由久安都佐能由
美乃由都可爾母我毛

おきて。いふ。づくまかす。をもてゆく。あづきのゆみ。ゆづくみ。おも

於久禮爲氏古非波久流思母安佐我里能伎美我由美爾
母奈良麻思物能牟

おくれあて。こひじく。あそ。かの。きみ。ゆみ。すむ。なまく。まのを
防人の妻のたすき。とき。お捕。う。ト。ら。を。ま。る。の。く。そ。な。り。す
ま。と。い。て。く。

右二首問答

佐伎母理爾多知之安佐氣乃可奈刀低爾手婆奈禮乎思
美奈吉思兒良婆母

やきかりに。たち。あそ。かの。かまく。よた。おれ。そ。み。なまく。こら。ハ。し
まよと。で。ハ。門。出。て。だ。じ。ま。れ。る。お。敵。れ。く

安之能葉爾。由布宜利多知氏可母我鳴乃左牟伎由布敵

思奈年波思奴波年

あのそくゆすきうたなちとがむかみのよしよせやべーかとバキニさん
肌をもはぬ路をもあくばるよこひまつごー、きとびはとばく、あきりがく
うそきうよしんじくすく

於能豆麻乎比登乃左刀爾於吉於保保思久見都都曾伎
奴流許能美知乃安比太

おのづまとじのとくよおきおほーくみつてさみるこのみちのあいだ
己がまとほて他の里よましにひがつりまくとちくとまきのると
かつてくとましにねるりとほくほよするへ

譬喻歌

安杼毛敝可阿自久麻夜末乃由豆流波乃布敷麻留等伎
爾可是布可又可母

あどきくああぐまやまのゆづるものよすあるときよかせゆのぞくのち
あどきくうは何ぞとよそ思はほる日あくまひうれど、ほ園の阿武
久磨のよもよろくやまうはまサのあうらほのゆのゆてうへの保く磨
例等とりするまひゆのゆとて、れハ時が憐む念まくして、ゆのゆの
ひづけをもと、ゆのいまくまほくふどうのす、風かづかうへまく
きほくふはすうどく、今と本く坐やまくハ行くよとくやとうと
古事記神武條大后の御登御宇泥備度麻許能波佐夜藝奴加是
布加年登頃

安之比竒能夜麻可都良加氣麻之波爾毋衣可多伎可氣
乎於吉夜可良佐武

あじきのやまかづくうげきよし、えがときかげきよ、おきよのうさん
ま十九ミリの山下日下うづくみりまほく、日彦蔓へねると日を

黒くかげのいづれ事十三 びの山新ルトヒトヨシマサ
王ニ涅ミユ涅
うづみのよしは古今詩三室のひづりやん左と集あるもの
山の山人と人をうふひづりやんともそくま、ハヨモハラス出、ハ
じに教き日暮うづりとよ、おまやうづんハ、廻るのをねらひの
まもれあればたやくへじて、と後よおまくうつとハせよ情じべて
あくまむ等くままでにうづくをせと、あくまうつて後よおまく
どす、まくのほどのむくまく、あくまやまのまへきとよあよ、まもく

守佐刀奈流波奈多知波奈守比伎余知氏半良無登須禮
杼宇良和可美許曾

をのくとたまらとまつたも、ひきとじきともうとまつてわづみも
をのくとたまらとまつたも、ひきとじきともうとまつてわづみも

美夜自呂乃繙可敵爾多氏流可保我波奈莫佐士口伊低曾
禰許米氏思努波武

みやづこのをよじかうてちかほづのをかわいできぬ、あくまん
あづろひのるこゝがまも、よめ良花とよもへきよむすびなつれ、
ゆきのよきそまくし

奈波之呂乃古奈伎我波奈卒伎奴爾須里奈流留麻爾末
仁安是可加奈思家

なハトのこあきがちを・きぬニモナム・まほく・あせうかすけ

こち・ほ二公・あせうかすけ・ほやせきこ・モミの江のけはの・かきつぞれ
みそりつけ・もん日・とめく・ゆ・モテ・一・こな・と・色・と・れ・お・け・るに

ね

て・と・む・に・ゆ・く・と・く・と・と・月・夕・天・度・古・空・宣・と・せ・

挽歌

可奈思伊毛牟伊都知由可采芽夜麻須氣乃曾我比爾宿
思久伊麻之久夜思母

かないもと・いづもゆのめと・やますげの・そ・ひ・よ・く・い・す・く・や・し・
山・ち・け・の・林・河・東・モ・故・ア・リ・セ・ト・と・い・づ・も・ゆ・く・
い・ま・ト・シ・モ・ト・カ・リ・ス・ル・

以前歌詞未得勘知國土山川之名也

ちのやうに波牟呂射馬炭・も・園・の・う・か・も・も・又・お・も・も・

遠・す・ま・キ・ト・サ・も・も・も・と・お・こ・く・園・た・不・知・ト・ル・一・ち・か・つ・う・一・
・人・の・言・な・る・一

方解十四下終 四十二

010190519290

